

事例 1

日頃からの感染対策および発生後早期対応での感染対策徹底により、初発の患者及び初発患者の同室者のみで収束



1 発生からOCRTが探知するまでの経緯

発生初日（0日目）

入所者1名が発熱。検査をしたところ、新型コロナ陽性が判明。
同室者1名についても検査を実施したところ、新型コロナ陽性が判明。
施設から保健所に陽性者が2名発生したことを報告。

発生1日目

保健所が施設から詳細情報を入手し、濃厚接触者の特定等行う。

発生2日目

保健所が施設内療養者の健康状態等を聞き取っている中で、ゾーニングについて感染対策助言が必要と判断し、OCRTに依頼。



施設と調整し、依頼翌日（発生3日目）にOCRTから薬剤師1名・看護師1名が訪問。



2

OCRT訪問時の施設の状況

- 陽性者は2名のみで、他の入所者、職員で有症状者はいなかった。
陽性者が同室であったことから、その居室のみをレッドゾーンとした。
- 食堂での食事も距離を開けて壁に向かって食べるなど感染対策に気を付けていたことから、濃厚接触者はいなかった。
- 陽性者は2名とも軽症で施設内療養であった。協力医療機関で新型コロナ治療が困難であるとの情報から、保健所が治療可能な医療機関を調整済みであった。
- 陽性者のゴミをグリーンゾーンである個室の外に保管。
- 職員が陽性者のゴミ保管場所を通過して、グリーンゾーンとレッドゾーンを行き来していた。
- PPE脱衣場所、出入口等適切な場所に消毒液の設置がなく、
また、エレベータのボタンや手すりなど消毒が漏れているところがあった。

3

OCRT訪問時の助言

施設での対応	OCRTからの助言
陽性者は2名のみで、他の入所者、職員で有症状者はいなかった。陽性者が同室であったことから、その居室のみをレッドゾーンとした。	Good! 
食堂での食事も距離を開けて壁に向かって食べるなど感染対策に気を付けていたことから、濃厚接触者はいなかった。	Good! 
陽性者は2名とも軽症で施設内療養であった。協力医療機関で新型コロナ治療が困難であるとの情報から、保健所が治療可能な医療機関を調整済みであった。	Good! 
陽性者のゴミをグリーンゾーンである個室の外に保管。	▶ グリーンゾーンを汚染しないよう、汚染されていない袋を用いて二重にして廃棄する方法等を助言。
職員が陽性者のゴミ保管場所を通過して、グリーンゾーンとレッドゾーンを行き来していた。	▶ 上記のとおりゴミ袋をグリーンゾーンで取り扱えるようにし、グリーンゾーンで職員が汚染されないよう助言。
PPE脱衣場所、出入口等適切な場所に消毒液の設置がなく、また、エレベータのボタンや手すりなど消毒が漏れているところがあった。	▶ 消毒液の適切な設置、職員の消毒液携帯、陽性者が触れた可能性のある個所を漏れなく消毒するよう施設内を職員と回りながら細かく助言。

4

訪問後の施設の状況

～ 施設状況のまとめ ～

- 施設では、日頃から感染対策を徹底しており、陽性者と濃厚に接触している方がいなかった。
- 発生後は早期に助言を受け、感染対策の不備を早期に改善した。
- 陽性者は、当初発生の2名のみで終了した。
- 陽性者は、症状の悪化はなく療養期間を終了した。



★ 施設情報 ★

定員60名程度の高齢者入所施設

● 陽性者の発生

→ 初発患者と、
その同室者の計2名。

● 収束までの期間

→ 約2週間

● 死亡者なし